

今こそ絆！復興事業

平成30年度

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会研修会

～クラブ理念をアクションに！クラブを次世代につなぐ～

報告書



日時 平成30年9月1日(土)午後1時～午後5時

場所 熊本市植木文化センター「多目的ホール」

主催 熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

(SCS火の国クラブネット)

後援 熊本県教育委員会

公益財団法人熊本県体育協会

— 日 程 —

1 開会式(13:00～13:15)

2 講 演(13:15～14:15)

(1)演 題 「熊本地震は突然に！そのとき学校は…」

(2)講 師 山都町教育長 井手 文雄 氏(前 益城町立広安西小学校 校長)

3 グループワーク(14:30～16:30)

(1)テ ー マ 「クラブの課題の検証、課題解決に向けたグループワーク」

(2)ファシリテーター 龍田地域なかよしスポーツクラブ 西島 徹郎 氏

4 閉会式(16:30～17:00)

(1)閉 会

5 情報交換会(18:00～)

講演 「熊本地震を経験して

～前を向く 運動遊び・体験活動で 子どもたちを元気に！～

山都町教育長 井手 文雄 先生

(前益城町立広安西小学校校長)

熊本地震（4月14日前震、16日本震）発生後の状況

- ・最初の写真は、職員からの提案で吹奏楽部の演奏会を行ったもの。住民など700人が集まった。明日から頑張ろうという意味で、感動的なものとなり、印象的なイベントとなった。
- ・地震直後は、住民だけでなく近隣からの被災者が殺到し、体育館・教室・校庭700人以上を収容。ニーズに合った対応に心がけた。また、病気の方は特別教室へ案内した。
- ・停電、断水、トイレ不足をきたし、その後、支援物資の搬入、ボランティアの受け入れ、マスコミ取材対応などで混乱した。衛生状態の確保が重要であった。
- ・子どもたちの安否確認表をつくりメールでチェックしていった。
- ・それでも、5月9日学校再開にこぎつけ、8月18日には体育館・視聴覚室の避難所を閉鎖し、益城町総合体育館に集約できた。
- ・県外から行政職員、教員、スクールカウンセラーを派遣してもらい、避難所運営支援、新1年生、特別支援学級、保健室の対応を分担してもらったことで、職員が子どもたちに付き添うことができた。マンパワーに助かった。

避難者支援の基本精神

- ・生命の維持（トイレ、寝所、食等の確保）に万全を期した。
- ・衛生状態の管理・保持（トイレ、弱者支援）に重点を置き、通路を土足・上靴の通行レーンを分け、衛生面に配慮した。
- ・児童のストレスの軽減、学級再開後に向けて、癒しの場をつくり、各自が活躍する場にするなど自己肯定感・達成感を得られるようにして、笑顔で楽しく、元気になることを念頭においた。
- ・職員の負担軽減を笑い、激励、適正評価で対応した。
職員を責任者として「大臣、長官」に任命して、主体性、責任感を醸成した。

支援の申し立てはすべて 原則 全てwelcome

- ・特に、食べ物の扱い（量、消費期限など）は重要だった。
- ・人、モノ、お金の提供には感謝、次回につながる受け入れ態勢をとった。ボランティアとのつながりを持てたのが幸いした。
- ・すべてが子どもたちのため、避難者のためを念頭においたのがよかった。
- ・支援の受け入れ決定は、問題解決型の対応を念頭において対処した。
- ・避難者に、運営上の不満、問題点などをメッセージボードに記入してもらい、現状、問題点を把握し、みんなの意見を聞くことからスタートしたのがよかった。

win&winの関係をコーディネート

- ・運動や音楽、読み聞かせなど多数のボランティアが来校したが、「断らない、たらい回しにしない」ことを基本にした。また、受け入れ側としての要望などを追加企画案として逆提案したりした。
- ・対外的な窓口を校長に一本化することで、決裁を受ける時間を省略でき、職員は子どもたちに集中できた。職員の負担を増やさないことに心がけた。
- ・外部からの企画は、学年主任による「お買い上げ制度（希望する学年で実施する）」で、自己選択、自己責任の活動にしたのが、スムーズな受け入れ、運営につながり、楽しいイベントとなった。

- ・授業時間は、国語、算数などの学習にあて、昼休み、放課後の時間や土曜日を音楽ボランティアの活動にした。
- ・ボランティアの受け入れに際して、行政の担当者と考えが違うことに悩んだ。
- ・行政側は、公平性などを基本に置くが、自分としては、断るのではなく、来てもらって、相手に判断してもらう方がベターと考えることも多かった。
- ・子どもたちから自主的に手伝いの行動（弁当の配布、あいさつ運動など）、新聞づくりが出てきたのがよかった。子どもたちの元気で、避難者みんなを元気づけた。
- ・日課表をつくり、スケジュールや引継ぎの見える化を行った。
- ・高校生、再春館バドミントン部などが来て、放課後教室で遊びや運動で体を動かすことが、元気に繋がった。NPOからは、毎日、定時にきて体操などしてくれた。
- ・毎朝7時30分には、益城町で作ったふるさとソングに合わせて、ラジオ体操を行い、健康づくりを行った。
- ・ひかわスポーツクラブの齋藤さんが来てくれて、子どもたちと遊びや運動をして、楽しく体を動かすことができた。
- ・初期のプログラムは、読み聞かせ、運動、音楽を主に実施し、心の癒しにつながった。

避難者支援で感じたキーワード

- ・「復興」をスローガンにした。子どもたちの中からも自主性が生まれた。
- ・復興のシンボルとしてTシャツを作成した（職員からの提案の一つ）。
- ・安心感をどう作っていくかに重きを置いたことが、よくできたことにつながった。
- ・スピード感を持って行った。
- ・新潟、天草、人吉などから子どもたちの招待をうけた。将来、町の復興を担うリーダーとして、貴重な、有意義な体験をさせてもらった。感謝したい。
- ・サッカー、野球、体操、陸上などの有名選手も来てくれて、スポーツや遊びを通して、子どもたちの元気につながり、大変良かった。

<質疑応答>

(質問)・町内会、体協などの地元地域団体との連携はどうだったのか？

(回答)・区長、民生委員の助力もあって、地元課題の共有ができ、癒し系のボランティアなどの受け入れや、イベントの実施ができた。

- ・行政職員は仕事としての立場もあり、シビアな対応を余儀なくされていたが、職員やボランティアは、楽しく子どもたちや被災者に寄り添う気持ちが持てた。

「クラブの課題の検証、課題解決に向けたグループワーク」まとめ

全体ファシリテーター：龍田地域なかよしスポーツクラブ 副会長 西島徹郎

当協議会に加盟するほとんどのクラブでは、設立当初からの役員・スタッフで運営されており、また、財源確保、指導者確保などの以前からの課題が解決できておらず、このままでは、将来、どれだけのクラブが存続できているのだろうかという不安がある。

そこで、第二部では、「クラブ理念をアクションに！クラブを次世代につなぐ」をテーマに、クラブの理念の共有と今後、継続的にクラブ運営ができるための、事業、財政、意思決定、事務局体制の現状と課題を認識し、その解決策を探り、持続可能なクラブ運営ができるように10のグループに分かれて討議した。

1 明確な理念

クラブ理念については、クラブ会員が知っているかどうかを把握しているクラブはなく、知っているのは役員くらいで会員には浸透していないのではないかとクラブがほとんどであった。

クラブ理念の周知については、募集チラシに記載しているクラブや総会、会議等で周知しているクラブもあったが、それでも浸透していないのではないかという意見だった。

クラブ員への理念の周知の手段として、年1回会員アンケートをとり、クラブ満足度に加え、理念の認知状況も調査をすることも一つの方法ではないだろうか。

【主な意見】

(1) 現状と課題

- ・ どれだけの会員が理念を知っているかわからない。
- ・ 会員に浸透していない
- ・ 知っているのは役員だけ
- ・ 役員でもぱっとはいえない
- ・ 小学生に理念を話してもわからない
- ・ クラブ理念よりも種目で選んで入会してくる

(2) 理念周知例

- ・ 会員募集チラシに明文化している
- ・ 総会・会議等で周知している

(3) 理念周知方法案

- ・ クラブの理念をみんなで唱える。
- ・ 入会時に説明する
- ・ 事務局から個人に説明する
- ・ 会員の理念を理解しているかアンケート等で確認する必要がある

(4) その他

- ・ 理念も変化する必要がある⇒理念の検証と見直し
- ・ 地域にも知らせる必要がある⇒クラブの認知度に繋がる

2 継続的な事業展開

どのクラブも役員の色づれが変わらず、高齢化しており、また、指導者についても十分な謝礼が払えず人材確保に苦勞をしている。

今後、継続的なクラブ運営を行うためには、新たな役員、指導者の確保が必要であり、そのためには、財政基盤の強化と指導者の意見を聞く場の創設や研修機会（クラブ負担）の提供が必要である。

また、新たなプログラムの創設、昼間のプログラムの開設なども必要である。

【主な意見】

(1) 現状と課題

- ・ 同じ顔触れが多く、高齢化している
- ・ 指導者の確保で苦勞している
- ・ 資金がないため人材確保が難しい
- ・ 指導者で資格認定者が少ない⇒スポーツ経験者で賄っている
- ・ 指導者の研修等資質向上の場が提供できていない
- ・ 種目が少ない
- ・ 高齢者は夜の活動が難しい
- ・ 20代～40代の参加が少ない
- ・ イベントをやりたいが参加者がいない
- ・ 競技スポーツとレクリエーションスポーツと分けている

(2) 解決策

- ・ 資金確保例
 - ・ 施設の指定管理者になる
 - ・ イベント時に、食事や物販で収入をあげる
 - ・ 委託事業（行政、学校、保育園、民間団体）を受ける
- ・ 指導者確保例
 - ・ 指導者にあつた謝金の支払い
 - ・ 指導者会議を開き指導者の意見を聞く→宇土（年2回実施）
 - ・ 指導者の講習会を開催したり、県や市、体協主催の講習会に派遣する
 - ・ 大学生等を活用する
 - ・ 体協やスポーツ推進委員と連携する
- ・ 会員確保
 - ・ 魅力あるプログラムの創設
 - ・ 高齢者向けの昼間のプログラムが必要⇒指導者の確保が困難
 - ・ 子どもたちへの学習の場の提供
 - ・ 高齢者向けのサービス
 - ・ ジュニア会員の保護者をターゲットとして勧誘

3 経済的な自立

ほとんどのクラブは、会費収入がクラブ財源のほとんどを占め、逼迫した財政基盤の中、無償に近いボランティア運営で成り立っている。

このような現状下において、多くのクラブが、前項で出たようにクラブ運営に欠かせな

い役員や指導者の確保が十分できていない状況にある。

そのような中、体育施設の指定管理や事業委託等を受け、会費だけに頼らないクラブも複数ある。

また、運営費をクラブ会費として徴収し、別にプログラムごとの会費を徴収して、指導者、事務員の謝金を賄っているクラブもある。

今後は、このような先進事例を参考に、自分のクラブで取り組める事例を探るなど、財源確保について今一度考える必要がある。

【主な意見】

(1) 現状と課題

- ・ 収益がなかなかあがらない
 - ・ 事業収入が少ない
 - ・ 会費以外に運営資金をどのようにして集めるかわからない
 - ・ どうやって委託につなげるかわからない
 - ・ もうかる手段が見いだせない
 - ・ 体協とスポーツクラブが分かれており、二重構造になっている
 - ・ toto の助成に頼っていて、将来が心配
 - ・ 年会費以外の参加費に不満の声がる（特に高齢者）
- ⇒ 受益者負担をどう求めるか

(2) 解決策

- ・ 会員を増やすことで経済的自立ができる
- ・ 管理費と事業費をわけて徴収
- ・ 指導者がいるプログラムは参加料をとる（受益者負担）
- ・ プログラムによって会費をかえる
- ・ イベント時の協賛金、協賛品の確保
- ・ 企業からの協賛
- ・ 指定管理をとる
- ・ 行政、地域、民間からの事業委託を受ける
- ・ 出費を抑える方法を考える

4 自律的な意思決定

クラブ運営については、一部の役員によって行われており、会員は、スポーツをするだけというクラブが大半である。

クラブが活性化するためには、いろいろな人がクラブ運営に携わる必要がある。そのためには、アンケート調査等による会員意見の聴取や各プログラム代表者を役員に入れ、会員へクラブ運営の実態を周知するなど、会員がクラブの実態を知り、何らかの形でクラブ運営に関わる仕組みづくりを構築していく必要がある。

【主な意見】

(1) 現状と課題

- ・ 主要メンバーだけで、会員の声を聞いていない
- ・ ほとんどの会員がスポーツをすることだけで、意見をいわない
- ・ 役員のなりでもなく、一人で運営している

(2) 解決策

- ・ クラブの意思決定機関の委員に各プログラムの代表者を入れる
- ・ クラブ満足度調査等のアンケートを行い、会員の求めているものが何かを聞く
- ・ アイデアの貯金箱をつくる
- ・ 会報、議題をスマホで流す
- ・ 総会の形態をかえる

5 事務局体制

ほとんどのクラブで、財政的な問題で専従の事務局員がいない。

専従の事務局員がいないことにより、会員確保、新たなプログラムの創設などクラブの活性化に支障をきたしている。

財源確保をどうするか。事務負担をどう軽くするかなど、事務局運営についても、専従の事務局員がいるクラブの事務局体制を参考に、今後、深く掘り下げて考える必要がある。

【主な意見】

(1) 現状と課題

- ・ 専従の事務局員がいない
- ・ 昼間に対応できていない
- ・ 事務局、クラブマネジャーの給与がでない
- ・ toto の助成を受けている間は常駐の事務局員が置けたが、それ以降は置けない。

(2) 解決策

- ・ 事務局を置けるだけの財源を確保する
- ・ 体協などの地域団体との連携し財政負担を軽減する。
- ・ 会員の当番制など知恵をしぼり、一人に負担がかからないような仕組みをつくり、事務局が常時開設できるようにする。

(3) 専従職員がいるクラブ（本研修会参加クラブ）

- ・ 南関 5名
- ・ 高SPO 1名
- ・ 大津 5名
- ・ 火の君 1名
- ・ 宇土 5人

※参考（県内クラブ69クラブ「平成30年度クラブ概要調査」結果参照）

有償常勤クラブマネジャー配置	15クラブ
無償常勤クラブマネジャー配置	5クラブ
有償非常勤クラブマネジャー配置	18クラブ
無償非常勤クラブマネジャー配置	15クラブ
有償常勤事務局員配置	13クラブ
無償常勤事務局員配置	10クラブ
有償非常勤事務局員配置	14クラブ
無償非常勤事務局員配置	12クラブ